

このマップは、市民がまち歩きをして作成しました！



市民のみなさんに地域の文化財・文化施設をもっと身近に感じてもらうため、この文化財イラストマップを作成しました。マップ作成のためのワークショップでは、22名の市民のみなさんが実際にまちを歩いて情報を集めました。このマップには、ワークショップ参加者が注目したのやコメントなどを盛り込んであります。マップを持ってまち歩き、地域の文化財・文化施設を楽しんでください。

- 秋田市立千秋美術館・岡田謙三記念館
 - 10:00~18:00
 - 一般300円(個人)、大学生200円(企画展により変動)、高校生以下無料
 - 秋田市中通二丁目3番8号 ☎018-836-7860
- 秋田市立赤れんが郷土館・勝平得之記念館
 - 9:30~16:30
 - 一般200円(個人)、高校生以下無料
 - 秋田市大町三丁目3番21号 ☎018-864-6851
- 秋田市民俗芸能伝承館(ねぶり流し館)・旧金子家住宅
 - 9:30~16:30
 - 一般100円(個人)、高校生以下無料
 - 秋田市大町一丁目3番30号 ☎018-866-7091
- 秋田市立佐竹史料館
 - 9:00~16:30
 - 一般100円(個人)、高校生以下無料
 - 秋田市千秋公園1番4号 ☎018-832-7892
- 久保田城御隅櫓
 - 9:00~16:30
 - 一般100円(個人)、高校生以下無料
 - 秋田市千秋公園1番39号 ☎018-832-1298
- 秋田県立美術館 ☎018-853-8686
- あきた文学資料館 ☎018-884-7760
- 秋田市観光案内所(秋田駅構内) ☎018-832-7941
- (財)秋田観光コンベンション協会 ☎018-824-1211

編集・発行:秋田市教育委員会 文化振興室
秋田市山王二丁目1番53号 山王21ビル4階
電話番号 018-866-2246 FAX番号 018-866-2252
印刷:秋田活版印刷株式会社
イラスト:小西 由紀子
発行日:平成22年3月(平成28年2月改訂)

おすすめコース
※マップの 色の部分

秋田駅発着のたっぷりコース

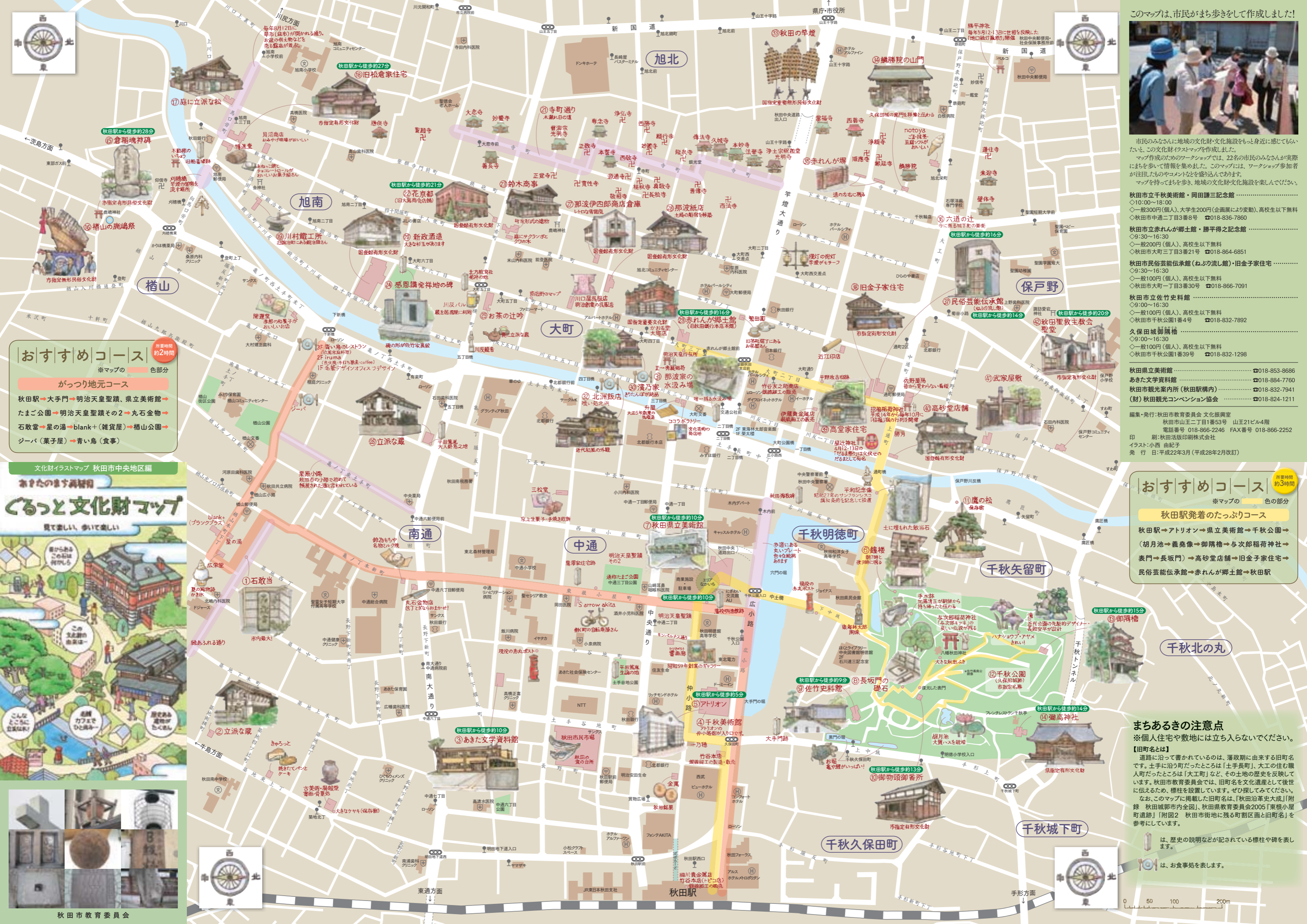
秋田駅→アトリオン→県立美術館→千秋公園→(胡月池)→義象像→御隅櫓→与次郎稲荷神社→表門→長坂門→高砂堂店舗→旧金子家住宅→民俗芸能伝承館→赤れんが郷土館→秋田駅

千秋北の丸

秋田駅から徒歩約15分
⑬御隅櫓

まちあるきの注意点
※個人住宅や敷地には立ち入りしないでください。
【旧町名とは】
道路に沿って書かれているのは、藩政期に由来する旧町名です。土手に沿う町だったところは「土手長町」、大工の住む職人町だったところは「大工町」など、その土地の歴史を反映しています。秋田市教育委員会では、旧町名を文化遺産として後世に伝えるため、標柱を設置しています。ぜひ探してみてください。なお、このマップに掲載した旧町名は、『秋田沿革史大成』(附録 秋田城郭市内全図)、秋田県教育委員会2005『東根小屋町遺跡』(附図2 秋田市街地に残る町割区画と旧町名)を参考にしています。

は、歴史の説明などが記されている標柱や碑を表します。
は、お食事処を表します。

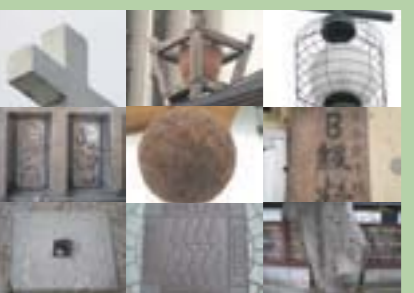


おすすめコース
所要時間 約2時間
※マップの 色の部分

がっつり地元コース

秋田駅→大手門→明治天皇聖蹟、県立美術館→たまご公園→明治天皇聖蹟その2→丸石金物→石取當→星の湯→blank+(雑貨屋)→楮山公園→ジューバ(菓子屋)→青い鳥(食事)

文化財イラストマップ 秋田市中央地区編
あきたのまち歩き
くもっと文化財マップ
見て楽しい、歩いて楽しい



① 石敢当（せきがんとう、敢当石ともいう）

石敢当とは、中国発祥の魔除けの石標。県内でも数十基確認されており、この石敢当は市内で最大と考えられます。近くには土に埋もれている頑固者の石敢当も！丁字路の突き当たりによく設けられているので、みんなも探してみよう。

② 立派な蔵

明治期の蔵と推定。昔は内蔵形式で、家財などを収める蔵でした。

③ あきた文学資料館

秋田ゆかりの文学資料の保存を目的に、研究者や作家たちから資料を集めて展示。ここで「あきた文学マップ」を手に入れて、文学の軌跡をたどってみよう。開館時間：10時～16時。休館日：月曜日、年末年始、特別整理期間。秋田駅から徒歩約10分。

④ 千秋美術館

国内外の優れた作品による企画展と、秋田ゆかりの作家の収蔵品を中心とした常設展を開催。岡田謙三記念館を併設。アトリオンビル隣仲小路側が入口です。開館時間：10時～18時。休館日：年末年始、2月最終、9月第1土日。秋田駅から徒歩約5分。

⑤ アトリオン

あきた県産品プラザ、音楽ホール、飲食店などが入っている秋田総合生活文化会館。アトリオンの吹き抜けには巨大なモビールが下がっています。

⑥ 錦楼

毎日午前7時と午後9時に鳴らしている鐘。寛永16年(1639)、2代藩主佐竹義隆が城内二ノ丸の一角に錦楼を設置したのが始まりとされ、明治25年(1892)現在地に建設されました。昭和18年(1943)に、太平洋戦争により供出されましたが、同23年「平和の鐘」として復活。しかし同43年に鐘様の老朽化等の理由により廃止。現在の鐘は同48年に復活したもので、家匠の末裔が今も時鐘を撞き続けています。

⑦ 秋田県立美術館

「秋田の行事」をはじめとする平野政吉美術財団所蔵の藤田嗣治作品を展示するほか、企画展を開催しています。県民の制作活動を紹介する県民ギャラリーを併設。開館時間：10時～18時。休館日：不定休。秋田駅から徒歩約10分。

⑧ 長坂門の礎石

ここは「長坂門」という門があった場所。千秋公園はもともと江戸時代の藩主佐竹氏の居城でした。千秋公園には、今でも城の名残がたくさんあり、かつて門があったところには門の柱の下に隠されていた礎石が残っています。長坂門だけでなく、城跡のいろいろな所によく似た礎石があるので、探してみよう！

⑨ 佐竹史料館

佐竹氏関連の史資料を展示するとともに、秋田の藩政時代を紹介。初代義宣公の素顔は不明ですが、館内にある義宣公のお面から覗く目は美男子!?開館時間：9時～16時。休館日：年末年始、展示替期間。秋田駅から徒歩約9分。

⑩ 御物頭御書所

安永5年(1776)の火災後に再建されたと推定。城下一帯の警備を行う御物頭の詰所。久保城内で旧位置のまま残る唯一の建物として貴重です。市指定有形文化財。

⑪ 鷹の松

旭川掘替え当時の歴史を物語る保存樹。樹高8m。なんと樹齢は350年と推定されています。

⑫ 千秋公園(久保田城跡)

近代公園の先駆者・長岡安平が初期に設計した公園。100年以上の歴史をもつ全国の城跡公園および近代公園のさきがけとして貴重です。桜の名所でもあり、秋田市民の憩いの場です。昔は公園内に動物園がありました。市指定名勝。

⑬ 御隅櫓

高台にあり、見張り場と武器庫の役割を担っていた建物。展望台から市街が一望できます。展示されている城下町の模型は緻密で、当時の町がよくわかります。開館時間：9時～16時半。休館日：12/1～3/31。秋田駅から徒歩約15分。

⑭ 湘高神社

現本殿は文政2年(1819)の建立。社彫の彫刻に江戸時代後期の建築様式の特徴がよく出ています。授与所にあるおみくじは必見!お金をいれと獅子舞が踊り出します。県指定有形文化財。秋田駅から徒歩約14分。

⑮ 倉稲魂神碑

荷役作業で落ちこぼれた粉米の供養碑。鹿嶋神社の向かいにある丸い池は、明治期の神社建立時に、社地を高くするため土を取ってできた池だそうです。市指定有形民俗文化財。秋田駅から徒歩約28分。

⑯ 庭に立派な松

明治期の建築と推定。庭には背の高い立派な松があります。

⑰ 新新政酒造

銘酒新政の酒蔵。大きな杉玉があります。嘉永5年(1852)創業。日本醸造協会が発売されている「きょうかい六号酵母」の発祥蔵としても有名。この酵母は安定した醸造特性、まろやかな味、上品な香りという特徴をもち、淡麗な酒質に最適であり、当時全国の醸造家に画期的な一大転機をもたらしました。国登録有形文化財。

⑱ 寺町通り

久保田城下は、旭川を挟んで武家町(内町)と町人町(外町)に町割りされていました。その城下町の西側を覆うように、寺院を集中して建てたのがこの寺町。木々が多く、木漏れ日を浴びながら歩きたくなる道です。昔、肝試しをした人も多いのでは？

⑳ 花京都(旧大島商会店舗)

明治34年(1901)に建築された市内最古の煉瓦造建物。高級雑貨・帽子などの流行品を販売する県内初の百貨店でした。今はお花屋さんです。国登録有形文化財。秋田駅から徒歩約21分。

㉑ 鈴木商事

明治期の建築と推定。妻入の町家形式を残し、城下町の風情が感じられます。

㉒ 感恩講発祥地の碑

日本初の民営による窮民・孤児救済機関「感恩講」があった場所。那波家の8代目当主・那波祐生が江戸時代の文政12年(1829)におこしました。今と言うNPO(民間非営利組織)のさきがけ。碑の形は佐竹家直紋で、源氏香の中でも花散屋のデザイン。

㉓ お茶の辻

日本茶や茶器・秋田焼等を販売。昭和初期の建築ですが、通り土間な江戸期の秋田型町家の形式を受け継いでいます。店舗のうしろにある蔵は、明治期の建築。

㉔ 立派な蔵

もともと川尻に住む地主だった方が、平田篤胤終焉の地が荒れ果てているのを見て、その地を譲り受け移り住みました。明治期に建てられた立派な文庫蔵が目を見せます。

㉕ 那波伊四郎商店倉庫

レトロな雰囲気のある倉庫。昭和10年頃の建築。ガングラムに似ませんか?国登録有形文化財。

㉖ 那波紙店

明治11年(1878)に現在地に創業。当時は茶・砂糖を販売。現在の建物は、明治19年の後火事によって家屋焼失後、同20年に土崎にあった船宿を移築したもの。国登録有形文化財。

㉗ 赤れんが郷土館(旧秋田銀行本店本館)

県内に残る明治時代末期の本格的な煉瓦造洋風建築。現在は赤れんが郷土館として、秋田の歴史・民俗・美術工芸に関する企画展を随時開催。木版画家の勝平得之記念館併設。国指定重要文化財。館前には秋田県里元標榜が。開館時間：9時半～16時半。休館日：年末年始、展示替期間。秋田駅から徒歩約16分。

㉘ 赤れんが郷土館

県内に残る明治時代末期の本格的な煉瓦造洋風建築。現在は赤れんが郷土館として、秋田の歴史・民俗・美術工芸に関する企画展を随時開催。木版画家の勝平得之記念館併設。国指定重要文化財。館前には秋田県里元標榜が。開館時間：9時半～16時半。休館日：年末年始、展示替期間。秋田駅から徒歩約16分。

㉙ 北洲飯店・喰い処北洲

料亭と中華料理店。建物は昭和30年(1955)建築。この爆弾ラーメンは東北一辛い!?

㉚ 秋田の芋燈

毎年8月3～6日に行われる伝統的な民俗行事。起源は空曆年間(1751～1764)と見られ、米俵をかたどった提灯をさげて揺れる芋の様子を、風にとよぐ稲穂を表し、豊作を祈る庶民の願望から生まれたとされます。国指定重要無形民俗文化財。

㉛ 田金子家住宅

明治20年(1887)建築で、江戸時代後期の秋田の町家形式をよく伝えています。屋根の上の天水溜に注目!市指定有形文化財。秋田駅から徒歩約16分。

㉜ 高堂家住宅

万延元年(1860)創業の酒店。主屋・文庫蔵・米蔵は明治期の建築。現在、「秋田県民」として、秋田に根差した、活動する作り手の作品をラインナップしています。

㉝ 高砂堂店舗

明治35年(1902)から現在地で営業している老舗の菓子店。ふわふわ「りんごもち」は絶品。大正7年(1918)建築。大正時代の風潮を反映する和洋折衷の貴重な建物です。店内にある秤をモチーフにした時計は必見!通町通り拡幅時に9m奥き屋した跡が壁壁に残っています。国登録有形文化財。秋田駅から徒歩約14分。

㉞ 武家屋敷

藩政期に建てられたと考えられる建物です。細い路地に建ち、近世の武家町を今に伝えます。

㉟ 秋田聖教教会聖堂

昭和5年(1930)建築。意匠的に洗練かつ優れた近代建築。聖堂内の天井にはおしゃれな照明。窓にはステンドグラスが。聖壇には「イエスキリスト」の文字が隠されている...?市指定有形文化財。秋田駅から徒歩約20分。

㊱ 鯛勝院の山門

山門は久保田城の裏門といわれ、移転の際に2階が追加され、除かれ現在の形となりました。

㊲ 赤れんが塀

昭和39年(1964)、浄願寺境内を貫通する新しい道路がつくれた時、ちょうど道路建設場所にあった正門と両袖の赤れんが塀が取り壊されました。しかし、赤れんが塀の一部は道路の左右にまだ残っています。この塀は、秋田刑務所建設時(明治45年(1912)竣工)の余ったれんがで造ったものだそうです。

㊳ 六道の辻

旧城下町の名残をとどめる交差点。江戸時代には3つの土手と6つの道があった場所で、敵の侵入を防ぐ役割をはたしていました。今でも6つの道を見つけることができます。平成21年まで、この場所の名にちなんで「辻乃通」という銭湯がありました。

㊴ 民俗芸能伝承館(ねぶり流し館)

芋燈をはじめとする郷土の民俗行事・芸能の展示や、保存伝承のため開催。1階ホールでは、芋燈を実際に体験できます。開館時間：9時半～16時半。休館日：年末年始。秋田駅から徒歩約16分。

㊵ 新新政酒造

銘酒新政の酒蔵。大きな杉玉があります。嘉永5年(1852)創業。日本醸造協会が発売されている「きょうかい六号酵母」の発祥蔵としても有名。この酵母は安定した醸造特性、まろやかな味、上品な香りという特徴をもち、淡麗な酒質に最適であり、当時全国の醸造家に画期的な一大転機をもたらしました。国登録有形文化財。

㊶ 寺町通り

久保田城下は、旭川を挟んで武家町(内町)と町人町(外町)に町割りされていました。その城下町の西側を覆うように、寺院を集中して建てたのがこの寺町。木々が多く、木漏れ日を浴びながら歩きたくなる道です。昔、肝試しをした人も多いのでは？

㊷ 花京都(旧大島商会店舗)

明治34年(1901)に建築された市内最古の煉瓦造建物。高級雑貨・帽子などの流行品を販売する県内初の百貨店でした。今はお花屋さんです。国登録有形文化財。秋田駅から徒歩約21分。

㊸ 鈴木商事

明治期の建築と推定。妻入の町家形式を残し、城下町の風情が感じられます。

㊹ 感恩講発祥地の碑

日本初の民営による窮民・孤児救済機関「感恩講」があった場所。那波家の8代目当主・那波祐生が江戸時代の文政12年(1829)におこしました。今と言うNPO(民間非営利組織)のさきがけ。碑の形は佐竹家直紋で、源氏香の中でも花散屋のデザイン。

㊺ お茶の辻

日本茶や茶器・秋田焼等を販売。昭和初期の建築ですが、通り土間な江戸期の秋田型町家の形式を受け継いでいます。店舗のうしろにある蔵は、明治期の建築。

㊻ 立派な蔵

もともと川尻に住む地主だった方が、平田篤胤終焉の地が荒れ果てているのを見て、その地を譲り受け移り住みました。明治期に建てられた立派な文庫蔵が目を見せます。

㊼ 那波伊四郎商店倉庫

レトロな雰囲気のある倉庫。昭和10年頃の建築。ガングラムに似ませんか?国登録有形文化財。

㊽ 那波紙店

明治11年(1878)に現在地に創業。当時は茶・砂糖を販売。現在の建物は、明治19年の後火事によって家屋焼失後、同20年に土崎にあった船宿を移築したもの。国登録有形文化財。

㊾ 赤れんが郷土館(旧秋田銀行本店本館)

県内に残る明治時代末期の本格的な煉瓦造洋風建築。現在は赤れんが郷土館として、秋田の歴史・民俗・美術工芸に関する企画展を随時開催。木版画家の勝平得之記念館併設。国指定重要文化財。館前には秋田県里元標榜が。開館時間：9時半～16時半。休館日：年末年始、展示替期間。秋田駅から徒歩約16分。

㊿ 北洲飯店・喰い処北洲

料亭と中華料理店。建物は昭和30年(1955)建築。この爆弾ラーメンは東北一辛い!?

㊽㉑ 秋田の芋燈

毎年8月3～6日に行われる伝統的な民俗行事。起源は空曆年間(1751～1764)と見られ、米俵をかたどった提灯をさげて揺れる芋の様子を、風にとよぐ稲穂を表し、豊作を祈る庶民の願望から生まれたとされます。国指定重要無形民俗文化財。

㊽㉒ 田金子家住宅

明治20年(1887)建築で、江戸時代後期の秋田の町家形式をよく伝えています。屋根の上の天水溜に注目!市指定有形文化財。秋田駅から徒歩約16分。

㊽㉓ 高堂家住宅

万延元年(1860)創業の酒店。主屋・文庫蔵・米蔵は明治期の建築。現在、「秋田県民」として、秋田に根差した、活動する作り手の作品をラインナップしています。

㊽㉔ 高砂堂店舗

明治35年(1902)から現在地で営業している老舗の菓子店。ふわふわ「りんごもち」は絶品。大正7年(1918)建築。大正時代の風潮を反映する和洋折衷の貴重な建物です。店内にある秤をモチーフにした時計は必見!通町通り拡幅時に9m奥き屋した跡が壁壁に残っています。国登録有形文化財。秋田駅から徒歩約14分。

㊽㉕ 武家屋敷

藩政期に建てられたと考えられる建物です。細い路地に建ち、近世の武家町を今に伝えます。

㊽㉖ 秋田聖教教会聖堂

昭和5年(1930)建築。意匠的に洗練かつ優れた近代建築。聖堂内の天井にはおしゃれな照明。窓にはステンドグラスが。聖壇には「イエスキリスト」の文字が隠されている...?市指定有形文化財。秋田駅から徒歩約20分。

㊽㉗ 鯛勝院の山門

山門は久保田城の裏門といわれ、移転の際に2階が追加され、除かれ現在の形となりました。

㊽㉘ 赤れんが塀

昭和39年(1964)、浄願寺境内を貫通する新しい道路がつくれた時、ちょうど道路建設場所にあった正門と両袖の赤れんが塀が取り壊されました。しかし、赤れんが塀の一部は道路の左右にまだ残っています。この塀は、秋田刑務所建設時(明治45年(1912)竣工)の余ったれんがで造ったものだそうです。

㊽㉙ 六道の辻

旧城下町の名残をとどめる交差点。江戸時代には3つの土手と6つの道があった場所で、敵の侵入を防ぐ役割をはたしていました。今でも6つの道を見つけることができます。平成21年まで、この場所の名にちなんで「辻乃通」という銭湯がありました。

㊽㉚ 民俗芸能伝承館(ねぶり流し館)

芋燈をはじめとする郷土の民俗行事・芸能の展示や、保存伝承のため開催。1階ホールでは、芋燈を実際に体験できます。開館時間：9時半～16時半。休館日：年末年始。秋田駅から徒歩約16分。

㊽㉛ 新新政酒造

銘酒新政の酒蔵。大きな杉玉があります。嘉永5年(1852)創業。日本醸造協会が発売されている「きょうかい六号酵母」の発祥蔵としても有名。この酵母は安定した醸造特性、まろやかな味、上品な香りという特徴をもち、淡麗な酒質に最適であり、当時全国の醸造家に画期的な一大転機をもたらしました。国登録有形文化財。

㊽㉜ 寺町通り

久保田城下は、旭川を挟んで武家町(内町)と町人町(外町)に町割りされていました。その城下町の西側を覆うように、寺院を集中して建てたのがこの寺町。木々が多く、木漏れ日を浴びながら歩きたくなる道です。昔、肝試しをした人も多いのでは？

㊽㉝ 花京都(旧大島商会店舗)

明治34年(1901)に建築された市内最古の煉瓦造建物。高級雑貨・帽子などの流行品を販売する県内初の百貨店でした。今はお花屋さんです。国登録有形文化財。秋田駅から徒歩約21分。

㊽㉞ 鈴木商事

明治期の建築と推定。妻入の町家形式を残し、城下町の風情が感じられます。

㊽㉟ 感恩講発祥地の碑

日本初の民営による窮民・孤児救済機関「感恩講」があった場所。那波家の8代目当主・那波祐生が江戸時代の文政12年(1829)におこしました。今と言うNPO(民間非営利組織)のさきがけ。碑の形は佐竹家直紋で、源氏香の中でも花散屋のデザイン。

㊽㊱ お茶の辻

日本茶や茶器・秋田焼等を販売。昭和初期の建築ですが、通り土間な江戸期の秋田型町家の形式を受け継いでいます。店舗のうしろにある蔵は、明治期の建築。

㊽㊲ 立派な蔵

もともと川尻に住む地主だった方が、平田篤胤終焉の地が荒れ果てているのを見て、その地を譲り受け移り住みました。明治期に建てられた立派な文庫蔵が目を見せます。

㊽㊳ 那波伊四郎商店倉庫

レトロな雰囲気のある倉庫。昭和10年頃の建築。ガングラムに似ませんか?国登録有形文化財。

㊽㊴ 那波紙店

明治11年(1878)に現在地に創業。当時は茶・砂糖を販売。現在の建物は、明治19年の後火事によって家屋焼失後、同20年に土崎にあった船宿を移築したもの。国登録有形文化財。

㊽㊵ 赤れんが郷土館(旧秋田銀行本店本館)

県内に残る明治時代末期の本格的な煉瓦造洋風建築。現在は赤れんが郷土館として、秋田の歴史・民俗・美術工芸に関する企画展を随時開催。木版画家の勝平得之記念館併設。国指定重要文化財。館前には秋田県里元標榜が。開館時間：9時半～16時半。休館日：年末年始、展示替期間。秋田駅から徒歩約16分。

㊽㊿ 北洲飯店・喰い処北洲

料亭と中華料理店。建物は昭和30年(1955)建築。この爆弾ラーメンは東北一辛い!?

㊽㊽㉑ 秋田の芋燈

毎年8月3～6日に行われる伝統的な民俗行事。起源は空曆年間(1751～1764)と見られ、米俵をかたどった提灯をさげて揺れる芋の様子を、風にとよぐ稲穂を表し、豊作を祈る庶民の願望から生まれたとされます。国指定重要無形民俗文化財。

㊽㊽㉒ 田金子家住宅

明治20年(1887)建築で、江戸時代後期の秋田の町家形式をよく伝えています。屋根の上の天水溜に注目!市指定有形文化財。秋田駅から徒歩約16分。

㊽㊽㉓ 高堂家住宅

万延元年(1860)創業の酒店。主屋・文庫蔵・米蔵は明治期の建築。現在、「秋田県民」として、秋田に根差した、活動する作り手の作品をラインナップしています。

㊽㊽㉔ 高砂堂店舗

明治35年(1902)から現在地で営業している老舗の菓子店。ふわふわ「りんごもち」は絶品。大正7年(1918)建築。大正時代の風潮を反映する和洋折衷の貴重な建物です。店内にある秤をモチーフにした時計は必見!通町通り拡幅時に9m奥き屋した跡が壁壁に残っています。国登録有形文化財。秋田駅から徒歩約14分。

㊽㊽㉕ 武家屋敷

藩政期に建てられたと考えられる建物です。細い路地に建ち、近世の武家町を今に伝えます。

㊽㊽㉖ 秋田聖教教会聖堂

昭和5年(1930)建築。意匠的に洗練かつ優れた近代建築。聖堂内の天井にはおしゃれな照明。窓にはステンドグラスが。聖壇には「イエスキリスト」の文字が隠されている...?市指定有形文化財。秋田駅から徒歩約20分。

㊽㊽㉗ 鯛勝院の山門

山門は久保田城の裏門といわれ、移転の際に2階が追加され、除かれ現在の形となりました。

㊽㊽㉘ 赤れんが塀

昭和39年(1964)、浄願寺境内を貫通する新しい道路がつくれた時、ちょうど道路建設場所にあった正門と両袖の赤れんが塀が取り壊されました。しかし、赤れんが塀の一部は道路の左右にまだ残っています。この塀は、秋田刑務所建設時(明治45年(1912)竣工)の余ったれんがで造ったものだそうです。

㊽㊽㉙ 六道の辻

旧城下町の名残をとどめる交差点。江戸時代には3つの土手と6つの道があった場所で、敵の侵入を防ぐ役割をはたしていました。今でも6つの道を見つけることができます。平成21年まで、この場所の名にちなんで「辻乃通」という銭湯がありました。

㊽㊽㉚ 民俗芸能伝承館(ねぶり流し館)

芋燈をはじめとする郷土の民俗行事・芸能の展示や、保存伝承のため開催。1階ホールでは、芋燈を実際に体験できます。開館時間：9時半～16時半。休館日：年末年始。秋田駅から徒歩約16分。

㊽㊽㉛ 新新政酒造

銘酒新政の酒蔵。大きな杉玉があります。嘉永5年(1852)創業。日本醸造協会が発売されている「きょうかい六号酵母」の発祥蔵としても有名。この酵母は安定した醸造特性、まろやかな味、上品な香りという特徴をもち、淡麗な酒質に最適であり、当時全国の醸造家に画期的な一大転機をもたらしました。国登録有形文化財。

㊽㊽㉜ 寺町通り

久保田城下は、旭川を挟んで武家町(内町)と町人町(外町)に町割りされていました。その城下町の西側を覆うように、寺院を集中して建てたのがこの寺町。木々が多く、木漏れ日を浴びながら歩きたくなる道です。昔、肝試しをした人も多いのでは？

㊽㊽㉝ 花京都(旧大島商会店舗)

明治34年(1901)に建築された市内最古の煉瓦造建物。高級雑貨・帽子などの流行品を販売する県内初の百貨店でした。今はお花屋さんです。国登録有形文化財。秋田駅から徒歩約21分。

㊽㊽㉞ 鈴木商事

明治期の建築と推定。妻入の町家形式を残し、城下町の風情が感じられます。